百椿集

全

帝國圖書館藏

213
327

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

66丁
2/
1B2夏

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

百椿集

柳文祿三稔甲午某和泉境正法寺ニ住セシヨリ慶長十九載ニ至リ心ヲ深ク花ニ染メ近国遠里ヨリ様々草木ヲ集メシカトモ椿トテハ赤キ山椿一重ニ咲ト薄色按白ナラテハ替タル色稀ナリシ適白玉ヲ一輪床ニイクレバ有マレキ物ニ思ヒ口ヲ揃ヘホメソヤマレ興ヲ催シテ慰キ其比曽テ見ナレヌ赤椿ヲ持来ル者アリ是ハト問ニ伊勢椿トナン云ッルヲ求兼テ心ヲ盡シタリツカルカ不意ニ大坂騒動ニヨリ逃テ京都ニ上ル

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

慶長二十年乙卯ノ夏家康征夷大将軍鑒大敵同
七月十三日改元アリテ号元和其年ノ暮ヨリ椿
日月ニ増益ス昔木ニ百梅草ニ百菊有トハ聞ケ
ト有テ名無レ実親リ見ントト要スレハ其数不多椿若
実ヨリ生レ因レ種色相テ変セハナンスレゾ古ヨ
リ無此趣矣今仁王百八代ノ帝後陽成院ノ御宇
ニ預メ茅レ令上皇帝ノ御代ニ甚以盛也白玉椿
ノ八千歳ト賀スル物某前栽ニ集レルタモ漸百
椿ニ及ヘリ珠重珠重皆是天理ノ恩寵ニアリ謹
テ案之日月清明ニ風雨以時災厲不起国豊ニ民安
全ナルヘキ瑞相ナラン物欤聞説伏犠皇帝ハ木
徳ニテ治世一百餘歳アリ加之周モ亦木徳ニテ
保八百歳彼嘉例ニ齊ク六十餘州ノ官領令東国
武州ヨリノ御下知ナリサレバ當時昌フル花ノ
椿ノ一字ヲ分テ見レハ木篇ハ春ニ則テ東ニアリ
タリ作リノ春モ青陽ニテ東方タリ最時宜相應
ノ恵ナルカナ草木ヲ舜カ無心ノ物ニセンヤ堯
ニ有簀莢舜ニ有屈佚草又周ノ成王ノ時唐叔得
禾異畝同穎献諸天子王命唐叔歸周公即作嘉禾
篇震旦ノ吉兆総一草ノ上ヲタニモ奇ト云況又

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

我朝ニ往古ヨリ無カリシ椿惟時一樹生万花盡善矣盡美矣珎事無物可取喩此上有道則徳自通天故也或詩ニ野草無端亦姓劉晉モ今宋ハ取ラレタレハ宋ハ劉氏ナリ天下ノ草花モ亦劉氏也又宋ノ劉奇好カ取晉ヲ時ハ草マテモ名ニ劉祐タリキ扨テハ知ンヌ日本ノ三代将軍本ヨリ源家ニテ渡ラセ給フノ上ハ椿花モ官爵ヲ免レ玉ハヽ源氏ニヘアカルヘキ物ヲヤ秦ニハ松ヲ大夫ノ官ニナサレ唐ニハ梅ヲ好文木ト賞レ給ヒ和朝ニハ老松ノ神紅梅ノ神ト祝セラルヽ謨モアり此椿澆季ノ今ニ至り千花万花ヲ不屑ストモ咲勝レタル聲花金殿玉楼ノ砌ニ御愛アリテモ雅ニ不賤ル九万木ノ最頂莫如之寒往暑来紅意緑情一樹ノ椿花ヲ詠ル席ハ錦纜牙檣ノ河遊遥モ不思レ燈前香後ノ奥ニ入ルモ求ムルヨレナレ造次ニモ此花ノ色ニ嫣り顛沛ニモ彼美景ニナレレカハ自然ト椿ニ十徳アル哉ヲ弁ヘタり

一雖経歳月不見老衰

藤泉為尹

久レサモ唯相生ニ見ヘニケリ椿ニ双ヲ峯ノ松

ケ枝

二無落葉而木下自清

慈鎮

此マヽニ秋ヲモレラレ常盤山夏コソナケレ松ノ下影

三以棲木之衢應寄易求　草菴集

歌ナカラ色ニ移リテ秋ノ野ノ小花ニ交ル月ノ影カナ

四雖在蒼生之地花容勝絶則忽昇內園

冬枯ノ芝生ノ本ニ住シカト春ハ雲井ニアカル雲雀ノ

五專樂請水偏禁游獵

伊勢大輔

池水ノ世々ニ久クスミヌレハ底ノ玉藻モ光見ヘケレ

六繼他家而不失已德位處セキ岩カキ沼ニヤトリテモ同シ空ナル秋ノ夜ノ月

七當春秋緑長枝條

慈鎮

山影ヤ秋ノ木ノモニ色深ク淺クトモ花ヲ思ヒケルカナ

八逢霜雪而不變色

住吉ノ庭モ杪モ霜枯テ冬コソ松ノ色ハアリケ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

レ

九四時開花改観悦目

関(サヒ)レサヲ花ニ忘ル、宿ナレハ見セハヤトノミ

人ソマタル、

十實則変油照(ニ)寂寞梳則為(レ)粧被(レ)受用

藤原為尹

燈ノスキ間ニモル、光カト見ユルヤ窓ノ螢ナ

ルラン

掉姫ノ柳ノ髪マクラフラン門ノ井筒ニ靡春風

公

草菴集

白玉之分

一三光　二朦月　三霞月　四雛波泻

五蟬羽衣　六桔梗椿　七山茶花椿　八桂花

九三五四　十濺白糸　土鵆宿鴎眠　土白フノ鷺

土白妙ノ袖　古雲放　五星一ツ　共　被ノ御方

七返玉章　六高野山　九遊仙ノ枕

一三光

昔ヨリ椿花ハ五葉ニ開ニソ常ナレ近キ頃四葉

ノ花出来タリ是サヘ珎レクレ葉興今又此白玉ノ

小輪三葉ニ咲ソメ又邂逅ノ事ヤト尊寵イト深

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

レ其振一葉々々谷莖際ヲヒラメニ咲出テ末次
第細クナリ花ノ先ハ上ヘ曲リ収ル全体鳥甲ノ
ナリヲ見ルニコトナラス琢ケタル玉ヨリモ清
クスメリコレラ比セハ雲ノ四海ニ晴渡リタル
碧天ニ日月星ノ三光ヲ一般ナル詠カモ斯ヤ粗
目出タ諸色ノ中白色根本タル百椿ノ巻双スレ
バ是ヲ最初ニアゲテ地天恭手ノ万歳ヲ呼カナ

月清集ニ

久堅ノ空ノ曇りモナキ世カナ三ツノ光ノスマ
ン限りハ

二臓月

白玉ノ大輪千葉ニテ葉コトニ脊械アリ世ニハ
尾張椿トモテハヤス大白ト云菊ノヲモブリシ
テ葉モナシ白雪（本ノマヽ雪カ）ノ如クニハアラズウス赤ギカ
ボツケリトアルカナキカノ色ヲ含ミホノカニ
イツクレク目モアヤニ詠居レハ珠シキ一葉々
々ソ散ケル

弐部卿親王

秋モ猶忍ハレヌヘキ光カナ花サク庭ノ臓夜月
此歌ニテ比量スルニ大カタノ白玉ハ秋月ノ如

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

レ今ノ椿ハ臘夜ノ月テ花チル庭ニ見タランハ
如何ニ

三カスメル月
白玉大輪能開テ八目ア人ア花ア
色アルカナキカノ様也膚美レクツヤアリ白綸
子ヲ見ルカ如レ人ハ云トテモノ支ニ色カナク
ハ大勝ナルヘキ物ヲト我ハ不然打見ハ白テ幸
與色ノ有ハ是ソ心ノツク処一入ノ詠ナラメト
自愛殊ニ甚レ

権中納言定頼

屋ナク庭ケキヨリモ中々ニ霞ル空ノ月ハコソ
思ヘ

此椿ハ三条ニテ永泉屋ノ意休坪ノ内ニ不覚栽
テ置タリレガ斯秀タル花ヲサク

四難波潟
白玉大輪ノ千葉ナリ下草ハ夥敷開キテ花先外
ヘ飜ルカ如レ而メ一葉々々ノマヨヨク配リテ
幾ク重モ有テ黄蕊ハナク打ボケテ咲收ル姿無
比類卒与色アルヤウレ臘月ト云椿ノ面影ニ似
テ愛有ト云ン

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

新勅撰

俊頼

難波潟芦間ノ氷ケヌカ上ニ雪(雫カ)降重ヌ面白ノミヤ

五蟬ノ羽衣

是ハ千葉ノ白玉也濃州岐阜ノアタリニテ徳永尤馬助モトメヌテ随分秘セラレタルニヨリテ天然ト欄ノ中ナル花ハ斯スカラ色香モ深ク思ヒナセル類多シ花ノ模様ハ大概先ノ臘月ハ如レ去トモ昏タル袂アリ臘月ハ一葉々々ニ背(セガイ)械アリテ花先キキツレ是ハセガイナク花不メニシテ打ボケテ言語道断ノ姿ナリ見ルト否ヤ心涼クナレハ重テモ猶アカヌ面影ヤト愛ヲナレテ名トス

山階入道前左大臣

今日トテヤ大宮人ノ白妙ニ重テ着タル蝉ノ羽衣

六桔梗椿

白玉輪少サク背械アリテ一重々々ノ間切レタルヤウニレカモキレス花ノ咲ヲリ尋常ニ細ク白キ桔梗ノ花ヲ見ルニ不異立容人皆云是ハ桔梗

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

ノ木ニ咲タル物ヤト異論ナク人ノ詞ニ任スレバ過ナレ桔梗ハ秋ノ七草ノ内ニテ古ヨリ愛スル物ヨ

七山茶花椿

葉形リ花ノ姿山茶花ト云ニ能似タル儘別ニ意趣モナク淺々ト名唱フル者歟山茶花ト云更モトヨリ椿ヲ異国ニ云名ナリ又云山茶花ハメツバキ也ト何レモ花ノ先トアリテ興アリ

八桂花

白玉ノ大輪七目(モク)八目有葉ノマハリ切揃ヘタル形ナリ白コマカナルレデハ常ノ如ク澤山ニ廣々ト花ノ惣本八分九分斗有テ其上ニ大キ薄キレデ村有レバサナカラ雪ノ幡廣キガ真砂ノ上ニ降テ積ラヌ風情トヤ云ハン此椿始ハ讃岐国ニ有レヲ京ノ侘好キニ角屋ノ道恵ト云カ求来ル世ノ人スミヤ椿ト云ヒキ予是ヲ植ヲキ委細ニ試レハ俊成卿ノ詠ニ不遠空晴テ散クル雪ハ久方ノ月ノ桂ノ花ニヤ有ラン

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

此白玉小輪ニテ下タハ三重(葉)ニ中ノ重子ハ五葉
ニ上ヘハ四葉ニ重リテ咲ク花ナレハ是モ又ウ
カト一重ニヒラク常ニハアラヌ躰(スガタ)ナル間唯打
見エタル躰ヲ名トス出處ヲ尋ヌレハ高臺寺益
長老ヘ信心ノ檀那ヨリ寄進ノ椿ト云

十瀧ノ白糸

白玉五葉ニ咲中輪単ニ能開テ枝内ニコヨリノ
様ニ筋ト云数モナク上ヘ〳〵長一寸許一盃ニ
咲登リテ蕊モナク惣テノ花サキ内ヱ曲リフツ
クラト咲収マレリ五葉ノ白キ中ニモ花ノ莖際
ヨリ先猶白クシテ青緑ニ見ユル此椿ハ都材木
町ニ水口五郎衛門ト云花執心ノ町人自然ト求
得タル木ニ白玉ニ此咲振竟(ツイ)ニ不出五葉ノ惣体
ヲ白浪ニ見ナシ先キノ清ク結ホレタルヲ瀧ノ
白糸ト見ナシテ慰マンハイカニ

慈鎮和尚

春来レハ花ノ白浪立田山抄(コスヘ)ニハ又瀧ノ白糸

白玉ノ冬咲ニテ打見タル姿近比ケタカク位有
テ二重ノヤウニアリ上ヘノ一重ハ鷺ノヤトリ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

タルニヨク似下タノ一重ハ鴎ノトマリテ眠タルサマニ惣別鷺約鴛鴦トテ鳥ノ中ニ盟約深キ物ソカシ此花ノ咲フリヘタヘヲ彼ノ盟ノムツマシキニ思准ヘテ名トス

十二白符（フ）ノ鷹

是ハ赤キ伊勢椿ニ能ク似テ而モ白玉ナレハ人皆白伊勢トコソ云ナレ去レトモ花ヲ手ニトリテ委細ニ見レハサスガ伊勢ト斗リモ云ヒ難シ單ニ白ク咲タル中ニ大ニ不メナル白シレデアリ又露ノ如ク少キツヾモ有近比面白キ風流也臙

姿ナフテ見ルニアカスガス

蒼鷹ノ白符ニ色々紛フラン十回（トカヘル）山ニ霰フル也　全葉集

十三白妙ノ袖

白玉ノ大輪十一目ニアマレリ千葉ニ咲重リテ白膚水晶ハ猶濁レハ影モ有ンヤ打見タル処白牡丹ノ盛ニ異ナラス去レハ陶淵明九月九日菊ノ下ニ無酒徒然トレテ有リシ王弘カ使ハ立晩（ニ）花ノ前ト云ヘリ此白ノ字ノ題ニテ作レル詩ナリ古今ニ

花見ツヽ人待トキハ白妙ノ袖カトノミソアヤ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

マタレヌル
是モ此古事ヲフマヘ菊ヲ白妙ノ袖カト読ルナ
リ今ノ椿ヲ始テ見付タル嬉シサハ測明カ王孫
ヨリ使ヲ得タル悦ヒニ聊モ劣ラ子ハゾ白キ色
ノ花ニ耽リテ名トスル

十四雲耿

白玉ノ大輪中ノ蘂ハ白細カナルト薄白ク荒キ
ト交リタリ此一樹ハ躰(スカタ)枝葩柳ヲ見ル如ク又糸
桜ノ靡クニ似テ枝モ抄モ婀娜(クラカ)ニ細ク下リ単ノ
白キ大輪花ノ面下ニ臨ミ活ト開キ無比類風情
也ト詠メ居レハ其間ヲ置テ一輪ハ白ク七日計
ノ大輪八重ニサキ潔ク開キタルカ花ノ面地ノ
方ヘ向ヒ単ト八重ト咲連タル物見ハタトヘヲ
トルニ言葉ナシ餘リニ様稀ナル花木故中々ニ
淺々ト撓夫モ謹フナレハ雲カト見ヘテ八重単
ヘ

十五星一ツ

人未テ云我宿ニ椿アリ二尺ニ不足花咲兼ハ色
ヲ不知其ヲ成共物ノ数ニ植ラレンヤト云即乞
請テ前栽ニ移ス明ノ年花アリ白玉ノ五葉小輪

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

成ル丁金銭花ノ大サニ心程増リナンヤ一重ニ
テ快ク開キ咲形チ類ナキイタヒケサヤ大輪ニ
テ十一月十二日成ハ有ト心ノ付丁ハ大方ナル
ガ此花ノ小輪ヲ見タル珠レサハ云ニ不言喩ヘ
ハ秋月斜メ成ヲ夜ナ々々詠ムル面白サト五月
闇ノ砌霖雨ノ遊勝(スサビカケ)ニ空打曇リテ青天ノ面影サ
ヘ忘レハテサビレク立ウタテレキ時思寄ラス雲
ノスキ間ヨリ星ヲ一ツ見付タランハ晴渡空ニ
月ヲ詠レハ物カハニテヤ有ヘキ

定家卿

星一ツ見付タル夜ノ嬉レサハ月ニモマサル五
月雨ノ空

十六 被(カヅキ)ノ御方

白玉膚雪ノ如クニ勝レタル小椿ナリ花厚ク下
タ三葉ハ開テ上ヘ三葉ハ不開一葉ハ内ヘ屈ミ
莟メリ又一葉モ莟メル上ヘ重リテ有リ又一葉
モ右ノ二葉ヲ覆ヒ包テ蕊ノ姿ヲ見セズ始ヨリ
終マデ終ニ不開ヌ風情麿ヘハ人ノ見ル目ヲ耻
ル婦人ノ偶往還ノ道ニ咲ル時被ヲレ面色ヲ見
ヘント謹ミ隠レタル姿ニ相似タレバゾ斯ハ云

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

ナラシ

十七返玉章

白玉ニテ花ノ形チ不レ強帝ヨリモタテ長ク咲ホツコリトエヒラカズ牽牛花ノ色メケル心地レヤサレク愛有り心ヲ奇テ思フニ是レ譬ヘハ我カ恋ル人ノ本ヘ忍テ書送りタル文ヲ見ルマテハナク結ビメ其マヽ解モヤラズ返レタル様ノ姿カヤ

金葉集

憑レモ人ノ心ノ解ヌニハ結ハレナカラ返ル玉

章

件ノ椿出ル処ハ不詳境ニ阿地子宗句トテ年未数奇ノ知音有尋ゞメ是ヲ贈レリ

十八高野山

此白玉大輪ノ八葉ニ開キタルハ如レ雪ノ其形誤テモ不レ増(カ)セ不レ滅セ同品也暫ク是ヲ観スレハ人々ノ胸中ニ肉團八葉ノ蓮臺ヲ具足セリト世尊ノ全文有去ハ弘法大師密巌浄土ヲ事相ニ顕シ真言上乗ノ灵地ヲ開玉フニ八葉ノ峯八ツノ谷ヲ以テ遮鰺ト與セラレシヨリ八百歳ヲ経テ未

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

ニ反ト云ヘド寂寞無為ノ山ニシテ勤行不退ノ
室ノ内ニハ鉢ノ音幽ニ聞ヘ無明長夜ノ眠ヲ覚
シ今モ三會ノ暁ニ心澄ミ不断燈明ノ光ハ榮落
迦ノ底ニ燻キ香ノ煙リ樒ノ香ハ廿五有ノ街ニ
薫シ渡ラン四部ノ弟子信仰帰依ノ連袖南無遍
照金剛ト唱ヘ屡ニ礼拝ヲ叉古今不易ニシテ
糸毫モ零落ノ氣色ナケレハ此椿ノ不変ニ寄テ
名トス

慈鎮

夏ヤサハ高野ノ山ニ住心關伽振鈴ノタクレノ

夢

十九　　寂庵ノ霜

白玉ノ小輪千葉ニ咲カサナリテ無比類物見也
カハル姿ハ大輪ノ白玉ニサヘ絣成カナ増テ小
輪成ハ超過シタル花ト云ハン卒与色アリ猶珠
與トコソ愛スヘケレ何トテ小輪ナルヲ勝レタ
リト云ヒ大輪ハ劣レル様ノ言葉有ヤ谷テ云馬
ニハ騎テ見ヨ人ニハ添テ見ヨ花ヲハ生テ見ヨ
昔ヨリ今ニ至リ價ノ高上ナル花入ニ細口ノ
有自然口ノ廣キ花入ニ小輪ヲ生テ見アマスヿ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

ハ稀成ルカ細口ニ大輪ノ花稍モスレバ見ル目
ニアマル然聞常ニ憶フ牡丹ノ花ノ冨貴ナル物
蓮ハ花ノ君子ナル如此大輪ハ咸ク遠キ詠ノ驚
キニテ庭前ノ籬ニ叶ヘり併或ハ釣舟或ハ竹節
若ハ筒ナトニ暑月ノ白蓮冬日ノ牡丹其外時ノ
珎花ナラハ大輪ニテ猶席ノ風流トコソ云ヘケ
レ又此椿ノ名ハ月清集ニ
色替ヌ白玉椿生ニケり幾夜ノ霜ノ置重ケン

二十　遊仙ノ枕

此花大白玉ニテ十四日ヲ以り餘り二大輪ニテ枝
ノ隤(タワ)マヌハナシ三五夜中ノ新月ノ色ト云イテ
モ踈カルマシキ物見ナリ去レハ関元遺支ニ云
亀茲国ヨり進テ奉ル一枚其色如碼碯温々タル
事如玉其製作甚撲素ナり若枕之則十洲三嶋四
海五湖盡ク在ル中所見帝因テ玄名為遊仙石賜
楊国忠ゝ々楊国忠ハ貴妃ノ兄ナり熟ク思フニ
此花ノ本ニ休ヒ盃数多給巡ラシテ不覚睡眠ニ
及ハヽ月宮殿ニモ至ル思ヒ遊仙ノ枕目前ニ得
タり

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

赤椿ノ分

一 緋玉垣　二 唐錦　三 色照山
四 元和　五 遅紅葉　六 鹿ノ声
七 入日ノ影　八 花ノ盛　九 一本時雨
十 雨ハフレ十一 初花染　十二 菊ノ盃
十三 三ノ岳　十四 時鼠屋茶筅　十五 和田ノ泉
十六 侭カ母　十七 樊素カ口　十八 司馬温公
十九 塵錦　廿 戸難瀬川　廿一 腰簑
廿二 八幡椿　廿三 藍溪　廿四 角倉
廿五 富貴

一 緋之玉垣
赤キ色ノ勝レテ濃キ八重九重ノ大輪各能開ク
ナリ一輪ハ八幡椿ノ如ク葉ノ間々ニ黄ナル蕊
五処六処細ナル刀咲岩ル有一輪ハマバラニ活
トヒラキ乱レ少モ蕊ナク真中ハ蓓テ収ル有又
一色ハ輪ノ中程ニ細キレデ立チ其シテノ本ハ
白ク末ハ赤咲有リ奇妙ノ氣色喩ヘテ古ハン様
ナレ名高キ社頭ノ神垣ヲ見レハ惣体赤ク間々
黄ナル彩色有ニ似タリ

前大僧正慈圓

君ヲ祈ル心ノ色ヲ人間ハヽ紅ノ宮ノ緋ノ玉カキ

椿花ハ三色ニ別ツ奇ニハ其色不得見挙例證ニ引ヤイナ色ノ多少ヲハ不取君ヲ祈ルノ詞ニ何カモレンヤ君ヲ祈ルノ詞ニ何カモレンヤ君ヲ今亦赤椿ヲ記ス始ナレハ南面臣ハ北面トアリ今亦赤椿ヲ記ス始ナレハ陽徳ヲ崇メテ是ヲ用載

二唐錦

此一樹ハ如何ニモ赤常ノ椿花ヲ一輪下タニ一輪ハ中ニ一輪ハ上ニ三ツノ重子タル様ニ咲アガレハ人ハ云ワナキ椿ヤト長高ク一向浮世ニアル振ニテハナシ

新勅撰ニ

足引ノ大和ニハアラヌ唐錦立田ノ時雨如何染ケン

トヨメリケル大和ニハアラヌノ詞ニ無比類花ト云心ハ明ケシ此椿ハ江州澤山ノ城主井伊掃部殿ノ家頼ニ岡本生介ト云侍アリ其前栽ニ有ツルトナン

三色照山

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

北花ノ色ト咲フリハ伊勢椿ナリ是ヲ世間ニハ
大和(三階ト)云テ持拍子氣(ケシカラ)不然(ヌ)大輪ニ少横ヘ長ク帯ヨ
リモ色コク見ユル也下タ一重赤キ葉沢山ニ咲
揃テ即其葉ノ上ヘニ又輪ノ大キサモ花ノ形チ
モ下ノ一重ノ如ク重リ咲二重ナカラ照輝ク姿
一輪ヲ詠ムルサヘ得ナラヌヲニ況ヤ彼ノ花ノ本
ニ立寄テカラハ時移リ日ノ暮ル、ヲモ打忘タ
ル折カラ入相ノ鐘ヲキヽテゾ光陰ハ隙ノ駒ナ
ル哉ヲ弥ヘタレ

権大納言為兼

暮ヌトハ枝モ覚ス紅葉ハノ色テル山ノ入相ノ
鐘

四元和

赤大輪椿ノ如ク冬咲ナリ千葉ノ内ニ一村ツヽ、
黄ナル蘂或ハ四処或ハ五処ニアリ三条衣ノ棚
亀甲屋ノ道圓ト云花数奇此椿花ヲ始メテ一枝
携来リ是ニ名ナシ何トソ付ヨト望リ某聞イツ
ノ頃ヨリ有ヤ元和元年ノ実(咲)生ナリト呉フ酔ク
思ヒ合スルニ五十四代ノ帝仁明天皇黄色ノ菊
ニメテ玉ヒ彼ノ御在世兼和嘉祥ノ間ハ下カ下

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

迫モ黄菊ヲ持拍子又去ハ始ハ曽我菊ト云ヒシヲ兼和菊ト重ンシ今ニ其名ヲ呼コトアリ幸大相国天下ヲ掌ニ握ラセ玉ヒテ元和ト改ル年号ニ始テ生レタルヲ祝シ即元和ト号ス是ナラズ吉事アレハ即其物ニヨリ改テ名トスルノ異国ニモ多アリ漢ノ武帝本時（ウタカウヘレ）ノ大将ト云年号ヲ改元鳥當時吉慶ナレハ也又孫叔得臣ハ得僑如名我子僑如ト云東坡モ大旱ニ得雨名ヲ亭ニヨセ喜雨亭ト云タル例モアリ

五　避紅葉

此椿ハ八重九重ニ松花ノ成ニ似テ紅ノ殊更濃色ナルカ葉上ヘ〳〵間々ヲ廣々ト高ク咲重リ長モ多カラズ大輪ニテ饒カナリ花ノ姿カナ喩ヘハ冬ノ氣色冷マシキコロ端山カ下タノ木ノ葉ハ落テ梢マハラナルニ遅キ紅葉ノ一樹見エタルハ珎シヤ秋ノ最中ヨリ猶一入ノ物見夕暮ノ興ニヤ有ン

家隆卿ノ

霙降ル端山カ下ノ遅紅葉一村見ユル冬ノ夕暮

六　鹿ノ声

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

此花ノ咲ク振ヲ見レハ黄菊ニコヨリ菊トテ水
引ヲ二筋合ハセ赤ク染タル程ノ細サニテ輪大
ニ花ノ莖長キアリ其形ニ少モ不遠椿花ニ章菴
集ニ夜ノ庵ト云題ニテ
妻戀ノ心知ラレテ小倉山夜コソ増レ小男鹿ノ
声
石ノ歌ノヨルヲヨリニ云ヒ成テ椿花ハ有ド此
椿ノコヨリニ増リタルハアラシト思ツヽケテ
ヤ
七
八日ノ影

赤キ色一入ニ花何レヨリ少サクテ優レキ中ニ
白菜ヒカヘ細ナル粒モ白シ肝ヲ消タル物見也
赤キ躑躅ノ花ト双ヘテ見ルニ何レヲ何レトワ
カチ難シ世ニハ躑躅椿ト云道理リヤ椿トハ葉
ノナリニテソ知ラレヌルル
月清集
笛サス嶺ノ入日ノ影落テコクソ染タル岩ツヽ
シカナ
又付合ニ
花ヲ折カト人ヤ見ルラン　躑躅サク木ノ下蔭

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

手ヲ揚テ

八　花ノ盛

此花ハ赤尾張ノ散椿ト云ゾカシ千葉ノ大輪ニテタケ高ク咲ノボリ分ケテ今ゾ盛ニ見物ヤト思ヘバ程ナクテ散々ニ成行春ノ名残リアリ色ハ匂ヘト散ヌルヲ我世誰ゾ常ナラント諸行無常ノ始ノ二句ニテ槙尾山寺勤操ノ書給フタル四十八字ノ大和假名心深サノ程今更ヌ新キ様ニ感レ敢リ

家陰卿

世ノ中ヲ思継テ見ルトキハ散コソ花ノ盛ナリケレ

九　一本ノ時雨

此椿九月初ヨリ必咲花ハ薄赤ク葉ノマハリ細ユナル者ノ切マハシタルカ如シ如何様替物ナリ去ハ鎌倉ノ中納言為相卿ハ定家ノ孫ニテアリ相摸国ニ唱名寺ト云律家（茅カ）ノ侍ヒソルガ堂前ノ楓山ハ末（ヲ）キニ先立テ唯一樹紅葉スルアリ奇異ノ丁哉ト沙汰シ其時節ニナレハ人々集リ是ヲ見ル或年為相卿彼寺ニ詣テ紅葉ノ躰ヲ詠玉

如何ニシテ此一本ノ時雨ケン山ニ先タツ庭ノ
紅葉々
ト読テ短冊ヲ付ラレケレバ明クル秋ヨリヒシ
ト紅葉ヲヤメ唯青葉ニテ星霜ヲ送リヌル支ノ
不思議サヨ其後心敬聞キ及ハレ唱名寺ヘ態ト
参詣アリテ
フリニケル此一本ノ跡ヲ見テ袖ノ時雨ノ山ニ
先立ツ
右為相卿ノ歌ノ詞ヲ取リ早咲ノ赤キヲホメタ
ル名ゾカシ

十雨ハフレ

赤椿ノ小輪珠ラシカラヌ様ニ有テ其莖毎ニ葉
ニ見ケレハ葉ノ莖ハ常ノ帯ノ様ニテエコラヘス是
ヲノ々々赤キ笠ヲ着タル様ニテ
何ニ似タル小式部幼稚ノ時メノト誘出テ櫻カ
モトニ遊居ケリ折節蟻ノ一花ヲカヅキ通ルヲ
見ツケ乳母タハムレテ歌ヲ
ハエ読玉ハヌヤト即ウチウナツキ
今日斗嵐ハスルナ雨ハフレ花迄キタル虫ノト

テルニ

十一　初花染

此花コキ紅彩ヲソト解タル様ノ色ニテ一葉々々ノ間キレハナレ花ノ葉毎常ニハ、ホンノタケ少長クレホラレキ姿愛ラナス、假初見レ美クレサヲ忘レントスルニ瞬ナケレバ昔ノ人ノ詞ニ悪暮ノ色ヲ深ク思ヒ初ラレレニ比ヘタル名ニコソアレ古今集ニ

紅ノ初花染ノ色深ク思ヒレ心我忘レメヤ

十二　菊ノ盃

此椿始ハ中根茂吉ト云侍ノ持タルヲ大守ヘ進上ス仍世ニハ茂吉椿トコソ聞觸レレ赤ク答タル姿弐重モカサナリテ心地ヨク未開サルニ待兼テ早見度心ノミ遽リヌ角テ此花咲タレハ大輪ノ千葉ニ重リ影布ガ手ナラントスル砌花ニ段ニナリヌ下タ一村ハ横ヘ開キ赤キ大杯ヲ重子タル様ニ見エ上ヘ一村ハ葉ノカサ子ハナレ々ニナク続ニ立登リ悠然トレテ脇ヘ傾ムカズ上モ茂リ下モ、栄テ八重九重ニ蔓リ繁栄之姿ナルマヽ名ヲ菊ノ杯トツケタリ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

行末ノ秋ヲ重テ九重ニ千代マテメクル菊ノ盃
右ノ椿ハ尾張大守大納言義直公ヨリ拝領辱矣

十三　三ノ品

一樹ニ三色ノ花咲ナリ第一ハ赤椿大輪ニテ八
目アリ下タ一重遅開ナキヤウニ咲重リ花ハ九
重ニ見ユル此上ヘニ下タノ輪ヨリ幅四分ハカ
りモヤヤト重子之厚サ五分程ニ咲其上ヘニ
下タ一重子ノ如ク大輪四葉五葉ニ開キテ中ニ
赤キレデト黄蘂ト交りテ収ル第二ハ一重ニ重
マテハ右ノ白ニテ三重目先ノ下タノ一重ノ葉
ノ大サナルシデニツ立テ黄蘂赤シデナシニ収
ル第三ハ山椿ノ五葉ノ單ニ黄蘂アルガ咲ナり
此花ノ三色ヲ分テ見ハ彼韓退之カ人ノ性ヲ三
品ニ分ケタルカ如シト上ハ一身ノ上ヘニ善キ性
ノミ有テ悪キ心ニ不移也中ハ一身ノ上ニ善ヲ
ツトメ又悪ヲモナレ善悪混シテモチタル性カ
り下ハ悪キ性ノミニテ人ノ善ヲ誹り好ヲ情
タム此三品ヲ今ノ花ニ比セバ上ハ第一ノ三重
トナレ中ハ第二番ノ三重トシ下ハ第三ノ花ニ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

ニアテ其性其性不改ノ義ニヨソヘ名ニ付テ賞スル哉和歌ノ風景ニヨセ用ラレタル心テ人ノ性三品ニアテ、試ンニハ

一　善性

谷風ニ解ル氷ノ隙ヿニ打出ル浪ヤ春ノ初花　古今集ニ

二　善ト悪ト混合ノ性　慈鎮

春ヲ経テ花咲春ノ春風ニ咲櫻有ハ散梅ノ花　俊成卿

三　悪性

花モ我モイカニ心ヲ砕ケトテ秋ノ野分ノ吹始ケン

十四　賤屋ノ茶筅

赤椿ノ單ニ五葉ナルカ花ノタケ秀テ、上ヘ、長ク咲ヘレカモ花先姥口ニ内ヘマカリカ、ム思フニ是民家ニ早朝ヨリ冗茶ヲ煎レ似タルヲ友トレ集リ並居時刻ヲウツレタテ、呑ナル其茶筅ヲ見レハ事ノ外タケヲ長ク穂先ヲ内ヘ曲タルナリ今ノ花ヲ是ニ比ス知ルモ知ラヌモ茶ヲヲバ好ムト云ヘ氏中ニモ煎茶ハ姥口ニ縁深ケレバ名ニ付テ呼ナラン右ノ花ハ南都一乗院殿小坪ノ内ニ有テ御自愛不淺トコソ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

十五　和田ノ原

赤椿ノ花タケ高タ千葉ニサクナリ常ノ千葉ハ
葉ゴト同シナリニ面リモ内モ咲カサナル是法
也此花ハ輪ノ外一色ニ何ノ紋モナクテ内ノカ
サ子莖際ヨリ並ヲヤリ一重二重三重乃至八重
九重ノ上ヘモ有ガ一面リタタサヾラ波ノ立
重ルトヤ云ハン小波ノ立ソムルヤウナル花ノ
莖モトニ葉ト云物聊モナシ

和田ノ原塩路ハルカニ見渡セバ雲ト波トハ一

明題集

ツシケリ

十六　侭カ母

此一樹ハ新在家ニテ連歌師昌俱ノ坪ノ内ニア
リツルヲ深ク望ヲカケ囑手ニ又赤キ色ノ小椿
ナリ花ノ間タヲ見レハ更ニ葉ナシ北礀外集ニ
截髪侭カ母トアリ截髪トハ范達過陶侭家侭貧
ニシテ客ヲ留ル支ナシ侭カ母我髪ヲ切テ酒ト
肴ト替テ客ヲ持成タルコヾ山谷カ詩ニ剪髪賓
延盛ナリト云モ此支也女房ノ上ニハカザリナ
ル髪ヲ切テ仁義ヲ務シ心榮謂ン方ナシ常ノ言

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

葉ニモ髪形チトコソ云フナレ去程ニ此椿花ハ
惣体風流ニ咲ト謂共頂キノ物見ナルヘキ蕊ノ
努々ナキハ形美麗ナル女ノ髪ヲヨロシタルニ
似タル故サテゾ侭カ母トハツケタル也彼ノ陶
侭ハ洞明カ祖父ナリ廣南ノ守護トシテ有シガ
後ハ八州ノ守護ト成タリシ

十七　樊素カ口

赤キ色ノ勝レテコキ小椿ナリ此花蒼ノ少開キ
ソムル時蕊モ白ク先モ白キ蕊葉ノ内ニホノカ
ニヒカヘタルハ百ノ婿アル美シキカ幹与ニホ

ヤカニ打咲タル姿トヤ謂ン去ハ詩格ニ櫻桃ハ
樊素カ口トアリ彼ハ楽天カ妓女ナリ雪溪友儀
ニ云白居易有妓樊素ハ能ク歌ト云々又白居易
病中ニ樊素ニ別ル、詩ニ病ハ与楽天相伴ニメ
住マリ春ハ隨樊子一時帰ルト謂ヘリ彼妓女カ
歌フロモト此花ノモノイハヌ唇ニハ中々及有
マジケレ氏楽天カ面白ク思ヒシ心ヲコナタヘ
移シテ云ハンニハカクモアラメヤ
口ヲスフトテ鼻ヲツキケリ若衆ニモヤリ頭ノ
有物ヲ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

十八　司馬溫公

山城国西岡ノ民下ニ自然ト有レ椿ナリ紅ノ千葉ナルヲ巷ノ前ニ植置ケレハ二年程一様ニ咲レカ三年目ノ春花ノ形チ大中小不同大輪ニ蘂有アリ無アリ小輪ニ蘂アルアリ無アリ色コキアリ淺黄アリ花ノサキ開サルル有白ク細キ筋アルアリ自由自在ノ咲様ナリ人ニ此レテ言ハンニハ彼ノ司馬溫公カ獨樂園ノ記ニ投竿取魚斫「社糸」藥決渠灌「花」或臨高縱目又行モ無所「産」止モ「死」所「托」ト生涯ノ心儘ヨク似タル物ヤト浦山布

テ名トセリ

十九　塵綿

是ハ花ノ色濃ク赤レ大輪ニテ八重九重ニ咲能開ナリ蘂ニソウテ小指ノ爪ノ程ナルシテ一ツアカルアリアカラヌアリ又黄蘂アルアリナキアリ塵綿ト云巻物虜ニ似タレハソ名トス如此花ノ地ニチヾミアル妛ハ白キニモ薄色ニモ有何モ打見タル処少クニテナシ

廿　戸難瀬川

赤椿ノ三重下ハ四葉ニ咲登ル中モ四葉ニ咲揚

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

ル上ヘハ五葉ニ咲登リ収ル三重ナカラ花ノ形
チ如キ牽牛花ノ咲テ花ノ末モ彼レニ同レク外ヘ
少ト縁ヲハリ一段々々ノ花莖モトノ間ニ分半
三分程ツヽモアランヤ然ハ都合花ノタケ上ヘ
ヽハ三寸五分六分斗ニ見ユルナリ勝レタル出
立喩テ云ン様モナレ赤キ色ノ重リ深ク咲ケル
ニ目ノ移レハ

續拾遺

堀川右大臣

戸難瀬川音ニハ濺ト聞ツレト見レハ紅葉ノ淵
ニソ有ケル

此一樹ハ都松泉通ニ友廣ト云テ巻キヨリ不倦花
ト云ヘハ草モ木モ自山野ニ分入テ辛労ヲ不顧
集啄レ故其物々ノ養育肥瘦ノ會繹諫磨ノ功ニ
ヨリ世ニ越テ此道ノ師兄ナリ其庭ニアリレ椿
ゾカレ

廿一 腰簑

赤キ大輪五葉ノ花厚ク九重ニ咲黄蘂多ク七八
分双立テ一莖アリ其葉ノ中ヨリ二重ニ三葉ノ
花下タノ輪ヨリハ少ク咲揚リ黄蘂少レ有免角
超過レタル椿ト云是ハ加賀能登越中三ケ國ノ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

大守前田肥前寺殿幕下ノ臣本田安房守ノ本ニ
有シヲカシ

廿二　八幡椿

是ハ八幡山ノ麓橋本ト云処ニ有シ天然此椿ヲ持合セタルカ世ニ廣リテ出家有シ又ハ牡丹椿トモ号ス勝テ赤八幡椿ト云ヒ習ハシレ又キ大輪ノ中ノ大輪八重九重ニ咲テ内ノ方ヘヨリ四処五処花ノ間ヲヲキ黄蘂一村亮交ル

廿三　藍渓椿

大徳寺南塔頭ノ和尚ニ依ノ人有秘藏ヲ不顧
椿一本ヲ参ラセタリ秘メ小方丈ノ前ニ栽ヘ自
愛アルヲ見ツケ無理狂心モノアリ憐愍シテ出
タサレタリシガ世ニ流布シ長老ノ名ヲ呼テ獣
ヒヨ花大輪ニ赤ノ蘂ノアタリモ乱レ出来タル
類ソカシ

廿四　角倉椿

此ハ嵯峨ノ角倉与一不思義ニ求得テ栽置シ木
ニ千葉ノ大輪(字)ヲヤリテ重ルアリ惣ハ能開キ
先キハ蓓テ収ル有色コキアリ薄キアリ早咲ア
リ遅咲アリタヽナラヌ勝物ナレバゾ人ノ口ニ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

アル花ミ

廿五 冨貴

此ハ花薄クモナク濃モナシ輪大ニ豊ナリ千葉ニカサナリタル心地ヨサ流石姿モ氣高クテ言ノ葉ニ伸ン様ナシ輪ノイタヽキロクニテ白蕊真中ニハナク輪ノ間々ノ四方ニ何モ中ノ方ヘヨリ一筋二筋ツヽ有アリ無アリ去ハ色ニツキ車ニ付見トル、計ナリ是ヲ比ヘ思ヘハ財宝ニ寛ナルヲ云レ冨族姓ノ高キヲ云レ貴ト也福禄ト爵位トノ差別也此花茂重モ寛ニ奢レルハ富ナリ色

相高上ナルハ位高ケレハナリ鄭大東子カ詩ニ萬紫千紅誇冨貴トモ有

咲分 咲交 飛入之分

一 洛中洛外 二 木枯 三 冨士 高根

四 濯錦江 五 柞(ハヽソ)杜 六 瀬々 白浪

七 晝 錦 八 深屋 亭主 九 錦ノ断尺

十 小屋ノ池 十一 高麗錦 十二 峯ノ白雪

十三 今日ノ暮 十四 其方ノ峯 十五 飯山人

十六 沈ム有明 十七 昔男 十八 源氏

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

十九 仏紅彩　　廿 班婕妤　　廿一 瀬田、長橋

廿二 桃花馬　　廿三 霜ノ紅葉　　廿四 梅法師

廿五 能衣裳　　廿六 薪能　　廿七 御免アレ

廿八 忍ノ衣　　廿九 野殿　　世 夜ノ錦

世一 鷹ノ爪　　世二 金杯紅盤　　世三 二日月

世四 朝寐ノ床　　世五 観音寺椿　　世六 月蝕

世七 優曇花　　世八 漢父、両蓑

一 浴中浴外

此椿中輪ノ九重ニテ紅ノ色ニ咲単ノ間ヨリ白キ蕊ノ丸ク中ハ窈(ウロ)ナルカ花ノ開キタル姿ニ添テ靡キ垂リ五処ニ酢ルナリ蕊ノ長一寸二三分斗ニ出テ先ニテ細ニ別レ黄ニ小粒ナル蕊卒与ツヽアリ此一世界ニモ物見ハ足レリ然ルヲ又上ヘニ単薄色ノ五葉ニ咲アリ白玉ノ五葉ニ咲有白玉ニ赤キカ飛入咲アリ是何ニ比量センヤ去ハ九重ノ内ニ奥ヲ盡シタレハ浴中ニ形トリヌ枝上ヘノ一重色々咲ヲハ浴外用ユベキヤ幸東ニ醍醐ノ山アリ是左青龍ナリ西ニ愛宕山有是右白虎ナリ南ニ八幡山アリ是前朱雀ナリ北ニ鞍馬山有是後玄武ナリ即四神相應ノ地トシ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

テ木火金水ニ四季ノ色具リタレバ自浴中ノ貴賤ハ浴外ノ名所旧跡ヲ慕ヒ春ハ花ニ袖ヲ挿ス秋ハ紅葉ニ裾ヲ連子往ト来ト平安城ノ眼ヒハ百万代ヲ歴トテモ盡スマジキ雅ヲ麹ヘテ以テ名トス

二　木枯

濃ク赤キ椿下タ一重ハ小輪ノ六葉ニ咲ケリ二重目ニ如菊閉重々ニ咲ク三重目ニハ竪ニ三葉咲揚テ其花先キニ白カスリアリ花ノ数皆毎輪不替此姿ニテ実ノ見物ナリ去程ニ一重二重ハ濃ク赤ク錦ノ乱レ深キ姿ノ色ナルガ三重目ニ成テ白キ絹ノ端々残リタル様ナルハ立田姫モ木枯ノ吹落テ杪ヘマハラニ成行ヲ見レハ秋ヲ思フ心モヨハリ織リサシタルヤノ疑アリ

家隆卿

古枯ノ吹ソメレヨリ龍田姫紅葉ノ錦ヲリヨハリツヽ

三　冨士ノ高根

一樹ノ内ヨリ不思義ヲ咲ス事人ノ語ルヲ聞ク程ハ皆虚言ヤト推シ更ニ実トハ思ハサリシ

ガ無紛越前椿ヲ手ニ取テ詠ルニソ「逢見テノ後ノ慈ニクラフレハトヤラン聞レハ物カト驚キアヘり唯一輪ヲ書顕ハスニテ残ル様々ラ思ヒ遣リ玉ヘ花五葉ノ内一葉ハ赤ク咲キ一様（葉）ハ白キニ赤スチ中程ニ一筋アり花先薄色ニ分マハルアり一葉ハ花ノ脇ニ薄色ノハキカケアルアり一葉ハ筋二ツ程アりテ脇ニ薄色ノチトコキ様ナルハキカケアり一葉ハ唯白ニ筋三通アル有前ノ大納言有房ノ歌ノ心ヲ引用ルノミ凡椿ノ上ニハ最上是ニ如ハアラレ然間枝桑国中ノ山ヲ下モニ駿河ノ冨士ニ類ヘ位ヲ高ク名ニナストカ

言ノ葉モ及ハヌ不二ノ高根カナ都ノ人ニ如何語ラン

四　濯綿江

此花白玉ノ中輪ニ赤キ筋五葉共ニ細ク雑り咲アり又一葉ハ赤キ一葉ハ白ク或ハ二葉ハ白ク一葉ハ赤ク飛入アり又ハキカケアル有希有ノ振ナり世ニ敦賀椿トテ求カヌルゾカシ冨士ノ高根ト一様ニテハナキナりイナ彼レハ地ノ白

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

サ鮮ニ赤キ色ウスメニ見ユル是ハ地ノ白サウキヤカナラズ赤支一入コク見ユル爰ノ程ニテ富士ノ高根ト濯錦江トノ暮ヲ知ヘレ名ノ意趣如何去ハ蜀ニ濯錦江トテアリ錦ヲ濯ク江ナリテ名ニ呼ナラシ今ノ椿色々ヤ様々ヤ彼唐國ノ名処ヲ思ヒ合セ

紅葉々ノ流ルヽ秋ハ河コトニ錦アラフト人ヤ見ルラン

後撰集

五 作ヽヽノ杜

薄色五葉ノ中ニ一葉ハ勝レテ赤アリ一葉ハ半分赤ク半分薄色アリ一葉ハ七分薄色三分一赤シ一葉ハ薄色ニ咲世ニハ是ヲ東菴椿ト古ヒテ望ム者多シ凡白ニ赤キ赤キニ白飛入ハ多ケレ共此姿ナルハ稀ナリ不思美ノ花ノ咲用ナル哉去ハ後撰集ニ

如何ナレハ同シ時雨ニ紅葉スル杜ノ薄ク濃カラン

六 瀬々ノ白浪

赤小椿ノ六葉アル内ニ一葉ノ花ハ先ノ方ヨリ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

白キハキカケ不メナルガ莖除迮通リテ有一葉
ハ白キハキカケ三筋カタノ如ク太キアリ一葉
ハ先ヨリ半迮ハ赤ク本ノ方ニ白筋アリカヽル
目ノ往ル花ハ希有ノ妛ヤ去ハ惣体ヲ紅葉ト見
ンニハ其處々ノ白キハサナガラ瀬々ノ白浪ニ
モ有ン

立田川ヲラヌ紅葉ノ影見ヘテ紅潜ル瀬々ノ白
ナミ

七畫(ケウ)錦

月清集

或時樵夫椿ヲ荷来ル何色共不知求テ栽置又明
ノ年赤キ丁紅粉ノ小薄様ニテ輪ノ大サ七目ア
リ花弁ク七葉ニ治ト開ク蘂(シベ)ノ莖薄色ニタチ黄
蘂細カナル頂キニ薄ク白キ粒不大不小又ガイ
クラモ咲ヲホヒタリ世ニ有ハ蘂ノ莖短シ此花
ハ莖美キガタケ高ク昇テ奇麗ニ物見ナレハ迩
比ノ出来物可紛モナク錦ナリ去ハ朱買臣ハ呉
人幼ヨリ好学家貧ナリ武帝是ヲ賢也トス五旬
ニ及テモ竟ニ不冨故ニ妻睽ヲ乞テ去又翁子後
ニ會稽ノ太守ニ従ル時ニ韓綺公カ冨貴而不歸

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

故郷如衣錦夜行ト古ヒレヲ思出シ再旧里ニ歸ル
国ノ人民皆見ル車ノ前後輝(カヾヤ)耻(ハヂ)ケレハ先ニ賤メ
タリシ類親タモ顫(カヒフルヒ)レ強(アナカチ)ニ其形ヲダモ貞ニ難見
耻ルトナン今ノ椿勝レタル出立衣錦如書行ナ
ル故其名ヲ委ス拾遺

古里ニ歸ルト見テヤ立田姫紅葉ノ錦空ニ着ヌ
ラン

八　深屋ノ亭主　大中臣能宣

赤八重ニテ中輪ナルカ姿促(ツヾマヤカ)ニ取リ不廣(ヒロク)花厚ク
葉ノ本ハ白ク先ハ薄色ト白トイサヾト輪ヨ
リ少シ高キ程ニ咲キ真中ハ少引込テ黄ナル荵
子ノ如キガヒカヘタリ此花世間ニハ冨田物狂
ト社云ナレ假深手ニ取リ又一輪細口ニイクル
モ氣ヲハウジ心ヲ面白フ持成ン為ナルニ物狂
トハ肝消ラレヤ尤理アリ然ハ今ノ名ハ如何ニ
去ハ從句(ママ)ニ云カケテ薄ヒモ濃モ其地カ知フト
九　錦ノ断サレ
赤キ中輪九重ニ咲重ル上ニ村々ト小キレデタ
チ真中ノ収リハコレデニテ其曲リハ黄蘂ノ細

カナルガ短ク赤キニ白キカ咲分ナガラ交リテ
イザヤトアリ扨モ物見ナル哉

山姫ノ是ヤ錦ノ断サレト紅葉打布ク夕風ソ吹
ク　　権大納言藤泉為尹

十　小屋ノ池

薄色八重ノ大輪三葉ハ皆白キモ有又大ナル白
キ筋有チヨボヽヽヽヽト白点アリ何モノヽ薄キ
ニ白キハキカケハ珠敷ヤ殊ニ八重ナレハ常ナ
ラヌ姿来花ソカシ白キニ赤キ白キハキカケコ

ソ様々アリシ　　草菴集

秋ノ夜ハ宿假ル月モ芦ノ葉ニ隠レテスメル小
屋ノ池水

十一　高麗錦

六葉有赤椿ノ大輪七目有間々切レテ葉ナキ花
ノ面幅一寸程ニアマリ長ク短ク開キ中ニコン
デヒレト重リ本ハ赤テ先薄色ニ白キ様ナリ又
先ニ黄ナル蕊交リタリ世人是ヲ黄白フトテ愛
スル予ハサハ思ハス春ノ夜ノ深ク開キニ山路

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

ヲ行々風カ(カ)ニ物ノ色ノ見ユルハ不唯ト覚束ナキ詠メ々々通レガ能々明方ニ見渡シタレハ爛ト咲乱タル花ノ錦ニテ有ツル物ソト驚キタル風情ナレハ為尹ノ歌ノ詞ラツミテ名ニ用ルモ遮ニハアラレ轄レ又引トメテ見コマ錦花ナリケリナ曙ノ山

十二　峯ノ白雪

赤キ椿ノ活ト開カヌナリ花ハ七葉ニ咲曲リ五葉ノ内二葉ニハ薄ク白キハキカケ有三葉ハ唯赤レ五葉ノ内ノ方ニハレデトモ云ンヤ常ノレデヨリ幅廣レ而リ五葉ヨリ八幅狭キガ二葉ソフテ有此ニツニハ濃キ赤キニ活ト白ガカヽリタレバ物見トヤ云ハン蕊ハ蕊本ヨリ白ク大キメニカサ有粒細カナレバ不悪

草葢集

分テナド難面カルラン出ル日ノ光ニ近キ峯ノ白雪

十三　今日ノ暮

輪ハ中ナリ白玉ノ五葉一葉ハ紅一葉ハ薄色ニ何ヒアフテ咲権大納言為尹九月盡ノ夕ト云歟

ニテ
月ノ夜ハ紅葉ノ陰ノ名残マテ蕾集タル今日ノ
クレ哉
此詠ヲ今ノ花ニ比ベテ思フニ白キハ月ノ夜ナ
リ紅葉ハ紅也薄キ色ハ陰ノ名残トセン大形風
流ノ氣色秋ノタニ盡レタルトヤ云ン

十四　其方ノ峯

紅粉色ノ大輪ニ白筋横ニ一文字ヲ引タル如ク
又複實程ナル白キ粒モ有是ハ實生ニ花唯三ツ
咲タルヲ某ニ見スル即倚テ求メ置ク草巻集ニ

暁月歇雲

長秀

月影ハ傾クタニモウキ物ヲ其方ノ峯ニ雲ソカ
ヽレル
歌ノ心暁方ニ成ヌレバ月ノ傾タル斗サヘ心ウク
物悲キニ剰雲ノ覆ヒ掛タルヲバナントシテ拂
ハンヤ去ハ今ノ椿ノ上ヲ思フ白一筋ヲ月ト見
ツヅヲハ星ト見惚体亦キヲハ新月ヲモ漫々タ
ル星ヲモ打陰レテ霞ニ影ヲ見ル名残打向フ當
意切ナル色ノ名ニヤ

十五　歸山人

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

摂津國高築ノ城主松平紀伊守氣不然秘藏ノ花
ト聞テ一穂望ケレハ相生ナリシ根ヲ堀ツケ一
方ヲ賜フ赤キ椿ノ花厚ク殊ニ色コク大輪ニヨ
ク開キタル上ヘ白カ輪一歪ニハキカケ薄霜ノ
降タル如ク咲ナリ喩ヘバ冬去ガレノ烈キ比山賤
ノ遥々ト通ヒ馴タルヲ知遣ニテ分入ルヤ道ノ
攀折(ツヽラリ)ナルヲ苦シト思フ色ナラテ手モ氷ル計ニ
凝集メ我住家ニ帰リ頁フタル薪ヲ下ロシ見レ
ハ不覺薄キ霜ノ降カヽリタリシ戔ヨ

家隆卿

イカ斗栄コル峯ノ寒カラン夕霜負ヒテ歸山人

十六　沉ム有明

赤キ九重ノ花ノ中ニ秀テ、蕊ハ白ク細カナル
カ咲出先ヘ成テ赤ク廣カリ圓ク其赤キ姿ノ中
モ半ハ赤ク半ハ白キガ吐懸タリ枚其間々ニ白
糸ノ如ク細ニ艶(マヽ)キ一寸斗ナルガ十六七筋チラ
々々ト揚リ一筋ツヽノ頭ラニ目ニ見ユルカ見
ヘヌ黄ナル粒ヲ頂リ尋常ニ美レサハ云モ愚ナ
リ何レ秘藏ノ出立焦レテ花ヲ執心スル人ニ此
一花ハ假初モ見セヲレキ法界悋氣有

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

立田川三室ノ岸ヤ浮フラン紅葉ニ沉ム有明ノ
月

花ニ合テ深ク吟シ玉ヘ

十七　昔男

薄色ニテ大輪七目ニ餘ルカ花厚ク開キタル振
花ノ面一文字ニ見ユルナリ同シ枝ノ内ニ白玉
ノ厚ク大輪ニサクアリ喩ヘハ薄色ノ輪ナリ二色共ニ幅廣ニ大
バ白玉五ツ六ツ程ノ位ナレハ形ガ平サニ打向ヒタル名トモ云ン本意者
昔男初冠シタルヲ思ヒ遣リ花ノ姿威儀ヲ正シ
氣高キヲ以テ云ニヤ有ン是ハ洛陽誓願寺ノ塔
ノ双ニ善知ト云僧有花ヲ愛スルニヨリ自然ト此
木ヲ求得タリ

十八　源氏

此椿ノ惣体ハ赤シテ花ノ縁ハ白シ枝ゾ源氏ト
ハ旗カ白ヒト云ヒカケテ名トス題白地扇
入院カ者餘飽皮　寶盛不染鬢与髭
今逢四海泰平日　一天椿出源氏旗　ト云詩モ
有

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

十九　八紅彩

白玉雪肌ニテ輪ハ中ナルガ花ノ回リ幅二分或ハ一分若ハ一分々半程エモ謂レズ紅ノ細キ糸ヲ分タル様ニ町ル也喩ヘテ云ハヽ少人ナドノ小ウツクシク白キ指ノ先爪ノ回リニ紅彩ヲ指タルニ不レ異此椿始一色ノ白玉ニテ有シヲ予カ前栽ニ移シ三年ヲ過テ係ル姿ノ花ト成レリ愛ヲシサ類ヒ稀ナル麦名ヲ聞テモ推レ玉ヘ於敷山法性坊菅丞相ノ昔荘(ウツシ)キ紅粉ニモ似タル梅ノ花アユカ顔ニモ着タガリケリ

二十　班婕妤

深ク赤キ六葉ノ草咲キ葉ナリムツクラト凹ナリ大輪ニテ七日アリ上ヘニ莖細ク薄色ニ白ヲ花サキ平メニ圓クエノ長キ團扇ヲ見ルヤウナルガ村々ト多双々テ二ヶ所エ咏ヘズ葉ノ莖キハ薄赤ク黄ナル稔大サ中ミ葉ノ回ヘレデノ添タル処モアリ然ルニ此椿ヲ人ノ名ニ呼ハ如何ニ去ハ漢ノ成帝初ハ班婕妤ヲ寵愛有ツルガ後趙飛燕ト云美人ヲ愛セラレ婕妤ハ寵愛衰ヘテ秋扇

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

ノ詩ヲ作テ述懐スルゾ扇ハ夏ハ寵愛セラルレ
ド秋風ニ成レハ奉ラル、程ニ吾身ヲ秋ノ扇ニ
喩ヘテ作レリ又古君ノ寵スタレテ限ノ炎胸ヲ
焼ク或夕ヘ蜩眉山ヨリ月ノ出ルヲ見テ張タル
團扇モ色如霜雪トモ班婕妤カ團雪ノ扇ドモ團々
トノ似明月ドモ去リ夏ヲ手ニ拂ハ雪ノ扇哉　宗祇
常ノ扇ハ我國ノ工ゾカシ唐ヨリ傘ヲ作リテ日
本ヘ渡シタル時日本ヨリ蝙蝠扇ヲ作テ傘ノ替
ニ遣レケルトモアリ

廿一　瀬田ノ長橋

此椿七日有大輪ノ白玉花世ニ超ヘテ厚キニ赤
筋五葉共ニ有又赤キ吐(ハキ)懸(カケ)内ニモ外ニモ大ニイ
ル有花ノ先各々矢筈ノ如ク卒与刻目アリ是ハ
江州膳所ノ城主菅沼織部ノ正無止事秘蔵ナリ
シヲ某耳ニ觸レヨリ難忍戀望ス

権大納言為尹

連波ヤ打出ノ濱ニ月寒テ一筋曇ル瀬田ノ長橋
右ノ歌ヲ思ヒ出テ花ノ名ニナス彼城郭ヨリ見
渡シノ名橋ナレハ其縁殊更ニ不浅社侍レ

廿二　桃花馬

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

白玉ノ五葉中輪ナルニ赤点大ナル有小ナル有
細キ筋有吐カケ有何ニカ喩ヘン周ノ穆王駁八
疋駿_然行天下不測天竺ノ昊鷲山ニ至レリ世尊
法華経ヲ説玉フ故ニ此普門品ヲハ直
説ノ漢語ト云支アリ其次ニ穆王瑤池ニテ西王
母ニ値玉ヒレ穆天子傳ニ吉日甲子ニ天子与王
母觴于瑤池上云々觴ト云ハ瑤池ニテ酒ヲ参リタ
ルヲ云

桃花馬

千栽蟠桃花正新瑤池阿母宴青春不知八駿歸来

詹同文

晩紅雨隨風落滿身　是ハ桃花ヲ形容シテ作タ
ゾ三千年ニ一度花咲實成ト云紅ノ桃花カ白馬
ノ毛ノ上ニ落カヽリタル物見ト此椿花ノ膚白
上ヘ紅点ヲ打散タル有様ト何レ目ノ前分明ナ
レハ名トナレテ愛ヲ盡スカナ

廿三　霜ノ紅葉

是ハ白玉ノ中輪ニ赤ク細キ筋五葉共ニ一葉ニ
二筋三筋筆ニテ竪ニ引タル様ニ咲ナリ世ニハ
絞椿トテ賞スル花ゾカシ備後安藝両国ノ大守
淺野但馬守殿ノ前栽ヨリ出タリ花ノ負熟々ト

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

見レハ得モ不謂ヌ工ミナル哉別思ヒ寄ヘキ旨
趣モナシ足曳ノ山深ク隠レ住ム身ノ年古キ菴
ナレハ垣根マハラニ霜ヤヲクト夜寒ノ床ニ堪
ヘ兼テ結ヒモアヘヌ夢心最ト眠ヲ覚メヨト遊
ム山風ノ烈シク落葉ノ雁ヲ明方ニ見渡シタル
氣色ト何レ

今朝誘フ程モ知ラレテ置ク霜ノ上ニ紅葉ヲ散
ス山風

廿四　梅法師

権大納言為尹

赤椿ノ小輪ニテ花ノ咲出五葉トモニ皺有紙ヲ
赤ク深テ乾レボヲヨセタル様也五葉ノ内ニ白
筋一ツ有コト二葉ニ有アリ三葉ニ有アリ四葉
ニ有アリ是ヲ思フ皺ノヨリタル形ハサリトモ
老体ノ膚ナレドモ出立赤ケレバ見苦カラズ一筋
二筋輪ノ内ニ白キガ有ハ彼梅法師惣体又赤ク
額ノ皺アル上ニ塩ヲ持タル風情トモ云ツヘシ

一休

一度江南没落ノ時発青逕心作法師歌問踪影横斜
古備前壺底晴皺屑　詩ノ心能有也

廿五　能衣裳

此椿初ハ何ノ興モナク赤キ色計ヲトリヘニ植タリシガ年ヲ歴ルニ従ヒ花ノ形チ大輪中輪小輪不定五葉厚ク横ヘ長ク咲アリ黄蘂交リテシデニ薄色有白有赤アリ花十咲ハ十ノ模様ニテ抑是ハ都方ヨリ出タル者ニ候ト名乗ルヤウノ程ナルケシキ哉服ニ継ノモ有ガタシ大夫モツレモ花ヲ荘リシメ好キ刎能出立思ヒ々々ノ装束一色ナラズ橋ガヽリヨリ舞臺ノ由々シサ色メキ渡ル賑ヒ見ル様ニテヤ斬計

廿六　薪ノ能

此花一輪ハ紅彩ノ色ニ咲一輪ハ五葉ノ上ヘニ赤キ小シベ村々ト一盃アリ一輪ハ小椿ニ一輪ハ白玉ニ都合四色ニ咲ゾカシ扨モ支ハ盡セマ天地ノ妙哉ト感スル間ニ時ノ移リ花ノ出処ヲヤ云芦原椿ト避迦ナル物ニシ嗜持タル人稀ナり何ニ喩ヘハ似タルアラン三笠山ノ麓春日ノ祭礼ナル薪ノ能ハ四座ノ立合ナレハ其家々ノ重宝ヲ取持出装束美シク品々ニ舞曲ヲ盡セル雅ヒモ斯哉ト比量シテ名トスル哉

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

廿七　御免アレ

赤椿千葉中輪ニ菊ノ花ノ如ク咲重リテ蕊更ニ
ナキ上ヘヘ白キ点一葉ニ一筋充咲荘タル花ノ
形チ紋ノ細カナル物見錦ハ唯古キ喩ヘノミ蔓
端ニ及ヒガタシ　院御製ニモ
紅葉葉ニ月ノ光ヲ指増テ是ヤ赤地ノ錦ナルラ
ン
心ヲ留テ吟シ見レハ御製ニ遠処ナシ尓ルヲ何
ソヲカシゲニ名ヲ云去ハコソ御免アレト望シ
カハ赤地ノ錦ノ直垂ヲ下シ給リヌ

廿八　忍ノ衣

此花赤キ千葉上ヘヘ高ク重リテ間々ヘ白キカ
交リ乱タレバ何ニ喩ヘンモイハレヌ姿ナリ単
ノ椿ニ赤白交ルハ数多有千葉ニ此振ハ不多家
隆卿ノ恋慕ノ色ニ詠シモ玉ヘル其色ニ染ム心ヲ
汲テ名トス深ク吟シ見モ玉ヘ
逢妾ハ忍ノ衣哀ナド稀成色ニ乱初ケン

廿九　日野殿椿

後陽成院ノ御時余惜花御史椿実ヲ御簡七有シ
其時一樹ノ内トカヤ申フルヽ表ハ白ク裏ハ赤

無双大輪仙洞ヨり出タル花ナレハ假初モ敬ヒ
ヲ盡シテ見奉ランコソ本意ナラメ

世一　夜ノ錦

赤單ノ大輪中ニ白シテデト黄蘂ト一寸五六分同
シ長ニ揚ル白シテノ先ニ赤ヲ戴ク有黄ナルヲ
戴有薄色ヲ戴クアリ何レヲモ不戴白斗有モア
リ打見タル処下旬ノ明ラカナルニ紅葉映セ
ラレタルモ此也

立田山夜ノ錦ノ顕レテ紅葉ヲ出ル秋ノ夜ノ月

草菴集

世一　鷹ノ爪

赤キ小輪ノ山茶花椿ナリ花ノ先ニ三葉四葉ニ
三分二分白筋有一葉々々ノ間切ル、葉モ亦小
クイタケ（悠）ニ莖本ヨり末迄薄色ニタツ頑ニ黄
色ノ芥子ニ少シ大ナルヲモテリ山桑ト名ヲ呼
ル、カラハ茶ノ一類ナルヿ不知去ハ茶ヲ攀（ヒク）時
鷹ノ爪ト云コソ一ノ細少ナル形チナレ今ノ世
茶花勝レテ輪小キニ白キ苻ノ飛入タルハ鷹ノ
爪ト付タル名ノ縁モ亦有様ニテ深シ後ノ小路
ニ勝谷（カツヤ）宗和トテ花ニ心ヲ染ル支年久シキ有椿

ノ実ヲ植テヨリ五年目ニ此花ノ咲ニ逢ヘリ
存ヘハ思フ時ニモ逢マセントス前句ニ野ニモ
山ニモ花ハ植ヲケ

世二　金杯紅盤

赤キ伊勢椿ノ五葉ノ如ク中輪ニ咲テ其上ニイ
サヽヽト惣テ黄色ニ蘂モリ揚リ一盃ニ有物見
也大ニ替テ称成様子黍タル妓喩ヘテ云難シ花
似金杯薦玉盤ト云詩ヲ思ヒ出テ名ニ成哉

世三　二日ノ月

赤キ千葉ニテ左而已色濃クモナク本ヨリ薄ク
モナク日ニ付タル物見ソカシ輪ノ大サモ中也
上ヘ〳〵高ク咲重リ輪ノ頂上内ヘ深シ其間リ内
ノカタニ二葉程白キ処アリ扨白蕊カラ白髪ノ
如クナルカ二筋三筋花ヨリ上ヘ〳〵モ立登ラス
愛ラシサ云ハカリナシ此花ノ姿夕空ハ緑ニ澄
ミ渡リタルニ二日渡リノ月指登リテ霞カナル
折カラ赤キ雲ノ覆ヒカヽレルテ痛ク悲フ思モ
此也

慈鎮

有欲無欲心ノ末ソ哀ナル二日ノ月ニ雲ノカヽ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

世四　朝寐ノ床

是ハ岡田伊勢守御代官所美濃ノ赤坂ニ重ト云ヒフラシタル椿ソカシ大輪ニテ赤シ廣嶋ノ大薄色ト長比ヘナルヘキ欤千葉ニ咲重リテ扱上単ハ別ニシテ六葉花先揚リ塗際各細ク六葉共ニ白キ吐カケ有葉ハ薄ク白ク先ノ程細ニテ優キナリ其葉ニ一葉小キレデノ吐カケ有カ添テ立ツ得不悉花ノ内ニ品ハ色々有レド大キナル輪ニテ殊更ニ赤ケレハ要ヲトリテ名ニ用ユ赤キニ目カ覚タルハ朝寐ノ床テハ析ナニカヲカシキ歌有

朝寐シテ書寐ヲ好ム夕迷ヒ適起テ居睡ゾスル

世五　観音寺椿

江州葦浦ニ昔ヨリ比叡山末流観音寺ト云名地アリ天下幾度轉変アレ共衰微ノ色ナク弥以繁榮ス此寺ヨリ岩タル花ナレハソ世人其名ヲ云ナラン赤キ五葉ノ中ニ白葉色々ト有テレホラレサ不歇見

世六　月蝕

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

赤椿ノ大輪花先外ヘ返り開ク其上ニ黄ナル蘂
囲り一亜ニ出テ、物見ナリ又中ハ白キ葉(ヨウ)長ク
立登ル係ル姿稀ニモ似タルナレ秀タルヿヲ比
セントスルニ類ナシ月蝕ヲ遥ニ見渡セハ白月
ニ赤雲ノ覆ヒタル様ソカシ然レハ白キニ赤キ
ト云キノ音(ニヘ)ヲ黄キカリ用テ名トス角テ三色咲
ノ趣朗然タルヲヤ何ト上ニモ無陰支ヲハ如日月
蝕ト去ヘハ此花名ノ高カラン行末ヲ兼テゾ思
ヒ設タル

卅七　優曇花

此椿花ハ三国無双共謂ッヘシ其故ハ薄色ノ千
葉ニ蘂モヤヤヤト一亜有テ其上ニ五葉同シ色
咲黄シヘニテ収ル中輪ノ二重咲ナリ是ニテモ
世ニハ希有也尤敬ヒカシ況ヤ一輪ノ内
ヘ赤カ交ル有一輪ヘハ白カ交ル有一輪ヘハ白
粒ノ飛入有去レハ位高キ人ノ上ヘニ五常ヲ正
シ才能世ニ勝レタルカ如シ如何ヒ褒貶ニ及バ
ス一日東天ニ出テ、月星光ヲ失スルモ是ナラ
ン去ハ若紫ノ巻ニ覚忍僧都ニ比シテ書タル北
山ノ僧都ト云有彼優曇花ノ花待得タル心地シ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

テ深山桜ニ目コソウツラ子右ノ歌ニテ名ニナス優曇花ノ丁佛仏行集経ニハ無量億歳ニ一ヒ現ストアリ天台ノ釈ニハ三千年ニ一ト夕ヒ現ストア有此相違ヲ會通スルニ天上ノ三千年カ人間ノ無量億歳ニアタルナリ人間五十年下天ノ一晝夜ニテ是ヲ思フヘシ椿花余リニ勝レ似タル物ナキ故枕詞淡ノ語ヲ用テホメ早ヌ

世八　澳父ノ雨蓑

赤キ中輪五葉ニ開キ中ノ大町リ黄蘂ナリ次ノ囲リ赤キシベ有又次ノ町黄葉アリ其次ハ赤キシテニテ咲収ルナリ然レハ黄葉二段ニ咲テ色ノ黄ナルニ便リツヾリタル蓑トナス漁人空ノ曇ヲ見テハ必先腰ニ短キ蓑ヲマキ又肩ニ短キ蓑ヲキル終日海ニ浮フトモ云ヘヒ風ニヨリテ魚ヲ得サルコトマヽアリ空ク帰ル汀ノ邊ニ酒旗アリソヽロニ呑タケレハ彼家ニ立ヨリ茂田カ欲解蓑衣當又恐明朝是雨天作者ノ心今ノ花ノ風情ニ相合フタルトヤ云ハン

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

薄色之分

一我カ儘　二不　難　三本因坊

四大薄色

一我カ儘

薄色ノ五葉單ニ中ノレデ花一盃有輪中ナル有
小ナル有冬咲クト有春咲アリレデノ色濃ク赤
ニ白蘂アル有レデ薄色ニ黄ナル蘂交リ有薄色
ノレデ斗細ニ盛(モリ)タル如ク咲有何ヲソレト定ナ
レ咲タキ様ニ咲クト見ヘタリ仇ソ生ヲ受ル中
ニ裸中(蟲カ)三百六十種人是カ長(長トナ)タリト有其ヲトナ

ト書タル中ニ嚴頂ノ果報イレジキ国郡ノ主タ
ル上ヘニモソレ程ノ苦カ、リ数ナラヌ者ハ猶
ヤルカタナキ思ヒノミ山野ノ獣江河ノ鱗ニ至
リ何レ世ニスミイキトレ生ル類ヒ安々ト生涯
ヲ過ルハナレ

後京極摂政

水ニ住雲井ニカケル心ニモ浮世ノ羅ハ如何苦
レキ

又　慈鎮和尚

曇ナク寒(サ)ヘユク(行)月ヲ見程ヤ身ノ浮雲ノ晴間ナ

ルラン

ニ有ゾカシ浦山シノ花ノ姿ヤ我侭ニ咲狂ヒ遊
フ支ヤト戯レテ云ゾ逸奥ナル此椿ハ本京ノ佛
光寺ニ南ノ坊ト云アリ其ヨリ出タル故人皆佛
光寺椿ト云ヒ習ハセシレ

二　不難

此花ハ薄色ノ中輪一樹ノ内ニ如菊咲ト又草
ニ咲ト有珎シ、一輪始テ幾重モ咲花ヲ見タリ
シ時ハ赤キニコソ千葉トアレ薄色ニハ此外ノ
姿ヲハ争カ咲ベキヤト高慢シツルニ暫ク時日

ヲ歴テ後思ヒモヨラヌ草ノ花ノ開キシ事ヨ去
ハ古話ニ百様ヲ知タリモ一様ヲ難ゼザレト云
ゾ誠成儘即以テ名トスル

三　本曰坊

薄紅彩色ノ大輪千葉ニ咲重リ心ノ儘ニ能ク開
キ葉ナレニ収ル有或ハ花先キ咎テ収ルモ有或
ハ千葉ノ重リ活ト不開葉ノ内深クテ段々ニ奥
物深ク収ル有或ハ一輪ノ内ニ濃ト薄ト交ルモ
アリ思ヒノ外早ク競テ年ノ内ニ咲有遅キハ定
レル法ナリ如何程色様ヲ替ヘテ椿花出来レモ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

見ル度ニ珠シキハ此花ニアリ王ハ少キガ故ニ
見貴石ハ多キカ故ニ見賤ト有餘世ニ游ル儘敬
愛輕ルクナリタルヤ此花出処ハ參州ニ有彼者
坊江戸ヨリ歸京ノ次而求テ登リ菴ノ前ニ植タ
ルナリ見ル人珠シガリ持タル主ノ名ヲ呼ンテ
都鄙ニ及ト云

四　大薄色

是ハ藝州廣嶋薄屋ノ宗善ト云町人アリ若キヨ
リ花ヲ愛シ草ニヨラズハ本ヨリ替タル花有リ
ト聞ケハ千里ヲ遠シトセズ水路ハ風波ヲ凌キ
陸地ヲハ嶮岨ニ不倦求メ得ルヲ以テ樂トスサ
ルカラ此椿天然ト持合タルガ京ヘモ上リ世上
ニモ廣マリヌ輪大ニ花厚キ事薄色ノ椿ニハ几
ソ希成物ヲヤ

紫椿之分

一　石山寺　二五山之上

一　石山寺

此椿ハ竪モ横モ一間ニ及フ土民五六人荷持来
リ價ニヨリテ離ントス某問フ色ハ如何ニ何レ

ノ土ヨリ出タルソヤ去ハ色ハ紫ニテ早咲ナリ
有シ処ハ江州ト計答ヘシテケルヲ求テヲヅヽ
々栽置シカ即其極冬ニ花開ク実ニ紛レモナキ
紫ノ色ニ咲コト八重九重ナリ輪大ナラズ小ナ
ラズ黄ナル蕊ノタツニ添テ幡一寸ニチト廣ク
長サハ一寸ニ少シ餘レルレデカ一ツ充ルアル
アリ又一輪ノ内ニハ二ツ程必花一葉カ二重ニ
畳ミ重リテ咲アリ只ナラヌ花ノヲモブリ紫ト
云所縁(ユカリ)ニヨリ幸近江ヨリト古ナレバ彼紫式部
カ石山寺ニテ源氏ノ間ニ住居シ世妾ヲ打忘レ
物ノ寂シク衣裳ヲ畳ヤタト、マヌ風情モ此花ノ
姿ノ様ニヤト思ヒ比ヘテ名トス又紫ハ色ノ最
頂也発句ニ
色ナラハ声ヤ紫鶯鳩

二　五山之上

宗牧

紫ノ大輪ナリ八重ニ咲面リニ短キ蕊赤ク出テ
、蕊ノ先チヨボ々々ト白ク物見ニ有其上ニ
又草ニ中輪咲テ小輪ノシテ数(イクヘ)モ又短キシベノ
チヨボ々々ト交リ咲シホラシサ限ナシ仇紫
ニハ最上ナル間以テ名トス

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

啓物之分

一 摺墨　二 朝日山　三 霄門高(サス)

四 春ノ色　五 第四ノ調子六 狐ノ祝言

七 八雲立　八 五音ノ里　九 黒星

十 寒夜民　十一 庚申ノ供

一 摺墨

五葉草ノ黒椿也五色ノ中ニ黒キ色ノ花ハ草ニ

モ木ニモ稀ナル物ニテ紺(コン)翁ナドヲサヘ貞カニ

ハ見タルコトナレ況ヤ黒キヲヤ為(シ)君若是写(サス)ニ愁恨

四海可乾小墨池ト云意ノ詩アリ此等ヲ以テ思

フニ椿ニ當時百品ニ餘リ異形異類ノ花ヲ咲ト

云ヘド強チニ感レ玉ハヌハ恨ミヤ此恨ヲハ墨

ヲ摺筆ヲ染メ責テ黒ミ遍テ述懐ヲ末ノ代迄ニ

不残ハ如何ンセント思ヒ染タル一花ゾヤ

院御製

摺墨ノ色レ見エスハ水茎ノ流テノ世ノ跡ヲト

メ、ヤ

二 朝日山

此花ノ姿モツカウナリニテ白玉雪ノ如キ中ニ

赤蕊一盃ニヒレト有テ咲クナリ見ルカラ心空

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

ニナリ又唯白キ木香(モッカウ)斗リモ称ナル物ヲ聲花(ハナヤカ)ニ
赤キシベノ添フタルハ何支ゾヤ奥ヲ盡シタル
風流双ナキ昏物哉去ハ惣体白形ハ宇治ノ川霧
簾ニ立渡リタル様トヤ云ン頂ノ赤フ前岁ル様
聲花(ハナヤカ)ナルハ明方ニ横雲タナヒテ風(き)メキ出ル
朝日ノ山ニ輝ク荘モ此ヤ新古今ニ権中納言公
実
簾ヲハ宇治ノ川霧立コメテ雲井ニ見ユル朝日
山カナ

三　齊ニ明扇

赤キ五葉ノ小椿チラト見タル処何トモスマヌ
色也心ヲ住テ思惟スレバ本性ハ赤椿ニテ有紺
色ノ筋細クヒシト有テ花先一分斗ハ勝テ濃ク
赤キカ面リテ云ニ云レヌ替リ様勝レ物ニハ様
ナシ喩ヘハ我カ待齊ノ兼言ニ其方ハ早ク明(ヨ)ヲ
扇法ノ前ノ屋形ナル儘アカ(明)キ時ニコカズハ逢
支ノ成間敷由ヲ云ヒ合セタル様ノ花ノ振ナリ
明キニ未ルトノ約束ハ

四　春ノ色

虚色ノ椿草ニ咲ナリ桔梗ト云ハンヤ朝顔ノ色

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

氏云ヘシ古ヨリ今ニ赤白ノ二遞テ青黄黒ノ三ノ色ハ如何ニトシテ遅キヤト花耽ル程ノ人皆是ヲ待兼タルフカシ不思義ニ時節至来シタル悦喜卜知ガ玉ヲ得タルモ此ヤ先ツ青陽ハ東ヨリ至ルナレハ四季ノ始ニ則ッテ春ノ色トハ名付タルナリ去ハ三春ノ空ニ向ヘハ遊絲繚乱タリ碧羅ノ天ニ氣ヲ養ヒ遥ニ外面ヲ看(カヘリミ)ヤリテハ青絲繰出陶門ノ柳ニ靡ク心モ嬋娟(タヲヤカ)ナリ永日遥ノ折カラ流水ニ臨メハ渕底モ翠ニ見エ溝渠ノ邊リヲ行(アリ)ク次デニハ池ノ色溶々トシテ藍染

氷ヤト慰ミヌ月清集ニ

野モ山モ同シ綠ニ染テケリ霞ヨリフル水ノ目

春雨

慈鎮

蒼姫ノ裸ノ肩ニ糸染テ花ノ綾織ル比ハ来ニケリ

五 第四ノ調子

此花朽葉色ニ咲クナリ扨ハ別ニ異論モナク黄椿トコソ云ベケレ五葉ノ大輪ニテ九目半アリ莖ノ本間ニ切レ離レテ花先ハ銀杏ノ葉ノ如ク

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327
ガラス使用

刻ミメ矛リトシテ圓ヲ去レハ調子ハ一矛双黄
盤ノ九ツアリ其矛四ノ調子黄鐘ナル間黄ノ一
字ヲ借テ其名ヲ珎布持成タリ近年椿色ト様ト
出立テ替リ人ノ目ヲ驚スト云ヘ共黄色ノミ後
陣ニ磬ヘタリ思フニ是黄色ハ大将中央ノ主タ
ル条君子不重則不威謂ニモ有ンヤ

六　狐ノ祝言

花ハ五葉ノ小輪ニテ紺色ニ咲ナレハ中々言ノ
葉ノ及フベキニアラス色相ヤ手ヲツケテ讃ム
ヘキ様ナレ世話ニ云狐凶事有レハ声哀音ニヒ
ク吉兆有則ニハ催ニ短クコンコント喜フ是ヲ
従句レテ名ニ顕スノミ可笑々々此椿ハ當世数
寄ノ道ニ名誉アル小堀遠江守前栽ニ有レナリ

七　八雲立

柿色ニ咲八重ノ大輪ナリ普ク人口ニ有ナル素
盞烏尊ノ八雲立ツ出雲八重カキ妻籠ニト詠レ
玉ヒケン其八重籬ヲ暫借ヌ

八　五音ノ里

千葉ニ咲柿色ノ椿ナリ花ノ躰輪ノ大サ彼蝉ノ
羽衣ト云椿ニ能似タリ去ハ大和ノ国ニ五音ノ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

里ト云処アリ文字ノ心タヽナラズ如何様子細
有サウナル名ニコソトテ宗長旅行ノ便リニ右
ノ在処ニ立寄ラレタレバ紺桔ノ家有折節主人
漆タル布ヲ手ヅカラ持安テヽモガリニカクル
体ナリ宗長亭ニ向ヒテ爰ハ五音ノ里カヤ中々。
敢ズ
ト申スゴイトハ何ト書ヅ五音ノ里ト書候其義
アヒウヘヲキテ布ヲコソマケト付タリ奇妙ナ
ナラバトテ一句
カケホスヤカウカキクケコ五音ノ里主亭取モ

ル作意ニ不有哉今宗長ノ句ナルカキクケコテ
借用テカ柿キ九希古ニナレル九ハ九重ニトリカヽ
ル稀成ハ古ヘモナキ花トイハン

九　黒星

此花五葉ノ内四葉ハ白玉ノ小輪ナリ一葉ハ黒
色ニ咲奇代ノ風情ナリ當世都ニ早ル妓人郡集
スル道壬辻ニ的場ヲ築テ前ニ弓ト箭トヲ双ヘ
置キ往還ノ輩勝負ヲ諍ヒ的ヲ射ル惣体白的カ
キニハカマハズ其勝ツ妓ハ星黒ニ有ト云我ハ
唯此椿ニ見當リタルコソ黒星ナレ

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

十　寒夜ノ民

此椿中輪ノ五葉ニテ巣ナリ一葉々々花ノ莖際ヨリ半分迄ハ黄色ニ少キ半分ヨリ先ヘハ薄色ニ咲ク類ヒナキ替椿更ニ物トシテ比量レガタク何レヲ其レト喩テ云ン方ナシ去程ニ一葉ノ標本ニ薄ト黄ナル咲分ナレハ人ノ衣裳ヲ着ルニ薄衣ナル姿トヤ云ン去ハ貧家ノ民生涯寒キ嵐ノ吹通ス垣根間ハラナル雪ノ夜モ一盞ノ温酎サヘ望ヲ絶蓬ノ艱ノナリワイモ冬ケレハ短褐薄衣ニテヤ明スラン柳延喜聖代ノ寒夜ニ御衣ヲ脱セ玉ヒ百姓ノ寒カラン哀ヲ憐ミ玉ヒレ厚サヨ衣温ル則ニハ忘ニ百姓寒トコソ有物ソ

十一　庚申ノ供（ソナヘ）

伊勢椿ノ如ク咲出大輪ノ八目モ九目モ有ニ一ニハ四重赤中黄色一盃ナルアリ二ニハ四枚白ニ中赤有三ニハ四重赤中白アリ四ニ四重赤ク中モ赤アリ五ニハ四重白中モ白キアリ六ニハ一輪ノ内一方ハ白一方ハ赤振分ニ咲哀裏モ表モ同姿タナル有七ニハ如何ニモ小輪ニシカモ心繰（シンクリ）テ咲アリ去ハ都ニイツノ程ヨリ何者ノ云出シタル

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

ヤラン庚申ニハ七種ノ手向アリ當其日七色ハ
ニニト云テ京ノ町ヲ賣ニ行ク支法也ト云七
色ニ咲花ヲ呼ンテ庚申ノ供ト付ル事更ニ私ニ
アラザルカ
右百椿ノ外ニ或ハ持主ノ名又ハ在名出処ヲ脊
年古ノアル人詞ニ花ヲ求サカセ珎キ由ヲ語ル聞
ケハ又坐ニ發望シ其一花ヲ求見ル皆百椿ノ内
ニアリ假令赤ハ濃ト薄ト飛入ハ多キト少キト
輪ハ大ト小ト遲咲ト早咲ト其所々々ノ土ノ意
ニヨリテ咲振リ勝劣アルノミ大底ハ從矛程ノ
類親乎然間一々不遑記安樂菴今年七十七硯ノ
海ノ礒ニヨル狂言綺語ノ藻塩草撥聚テノ役ハ
何ゟ

右温故堂藏本五色ノ唐紙樣ノモノニ写セシ古
本ヲ以テ写ス但某藏古写本ヲ以テ文政十一年
四月十七日一校セシヨシレヲ後ニ記ス然レトモ
猶写誤疑フヘキモノ多シレ其マヽニウツシヲキ
メ
安政六年己未四月九二日完成

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327
ガラス使用

其日卷

蓮翁

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用

213
327

国立国会図書館　タイトル『百椿集』 請求記号 213-327

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『百椿集』　請求記号 213-327

ガラス使用